



ニュースレター Vol.14 2012. 4月号

桜の花が咲き、新緑あふれる季節となりました。日本では入園・入学のこの季節、ピッカピッカのランドセルや新しい制服に身を包んで通学する子ども達の姿をたくさん目にします。この子達の新生活が笑顔であふれ、学校という場が温かく安心できる居心地の良い場となる事を願っています。

第13回

信頼と安心のための共同体づくり

——市民社会づくりの先駆者としてのイエナプラン

協会代表 リヒテルズ直子

3月15日、JAS（イエナプラン・アドバイス&スクーリング）の研修施設のあるEchtenでディナーテーブルに ついた11人の参加者。研修所での4日間の研修を振り返りながら、一人ひとり思い思いの感想を述べ合いました。今回の研修参加者は、地位も、専門も、経験も多彩で、多くの人たちが初顔合わせ。でも、4日間の合宿後に、皆安心して自分の言葉で感想を言い、その場に、〈共同体〉が生まれていることに気づきました。

〈共同体〉は、お互いの意見が一致しなくても、共にお互いを尊重しあい受け入れ合い、それぞれが自分の言葉で語り、また、それに皆が耳を傾ける場です。わずか4日の研修で、こんなにも人と人をつなぐことができるのはなぜなのでしょう、、、それは、イエナプラン教育が、それ自身、人と人との直接の交わりを大切に、お互いがポジティブに関わるやり方を、具体的に丁寧に教えてくれるものだからだと思います。

私は研修のお世話をしながら、今年も、知らない者同士の集まりが、次第に何でも打ち解けて話し合いができる仲間として変化して行く過程、特に、イエナプラン教育のあり方そのものが、その過程を無理なく、けれども、意図して支援するものであることを、改めてまざまざと感じる思いでいました。

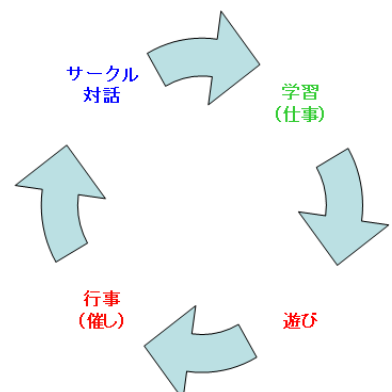
イエナプランの教員研修では、しばしば、小グループや、全員がサークルになって、会話し意見交換する機会が設けられています。もちろん、小学校の教員として「サークル対話」を指導するための訓練であり、自分自身がそれを体験し、子どもたちのために、うまく対話の効果を生み出せるようになることが目的です。また、学校の教職員として、子どもたちを指導し、保護者を巻き込んでいくために、良いチーム作りをするための訓練でもあるといえます。

今回の研修でも、たくさんの場面で、初対面の人たちが組み合わされてグループになって仕事(学び)を進めました。そのたびに出される課題が具体的であるので、初めての人でも協働作業が進めやすいのです。その人の人柄、特性が嫌でも引き出され、お互いをポジティブに受け入れるように、と、まるで、子どもたちを指導しているように、安心と信頼の関係作りのための場が用意されます。しかも、課題は、どの人もアクティブに関わらなくてはならないものなので、やっていて「楽しい」のです。そうやって、はさみや糊を使って一緒に工作をしたり、学校訪問で、まだ口をきいたこともない人同士と一緒にクラス訪問をしたり、全員でサークルになって「課題」を解いたり、合間に織り込まれた遊びをしたり、最後には、小グループで「寸劇」まで作りました。

イエナプランの中には、4つの活動が「仕組み」されています。サークル対話、仕事(自律的な学習と共同学習)、遊び、催しです。

サークル対話は、教員も含めお互いが「平等」な関係に基づいてオープンで率直に意見を交換する場です。それは、民主的な市民社会の象徴の場であり、練習の場でもあります。自律的な学習では学習者は自分を知り、自分なりの仕事の進め方を自覚し実践していきます。共同学習では、自分の特異な面と他者の特異な面とを、共に尊重することを学んでいます。

そして、遊びは、精神を解放する時間であり、生を楽しむ場であり、



それを通して、私たちは生きることを共に楽しむことができるのだ、という実感を持つのだと思います。イエナプランにおける「催し」は、お互いの学びの成果を喜び称えるとともに、感情を共有し互いの感情に共感する場でもあります。4つの活動が、なぜ『仕組みられて』いるのか、、、

それは、イエナプランが、究極的には、さまざまな特性を持つ一人ひとりの個人を尊重し、誰一人として粗末に扱わない、平等な関係に基づいた「共同体」を未来に向けて目指したものであるからなのでしょう。



Photo: リヒテルズ直子

研修に先立つ2月、ある視察のために、イエナプラン校を訪れていました。上級生(小学4, 5, 6年生)の教室で、朝のサークル対話をやっていました。15分くらいの短い対話の時間がもう終わるかな、と思っていた頃、そのサークルの中に黙って座って居た一人の男の子が手を挙げて、こう言いました。

「僕は今日はとても悲しい気分です。昨日の晩、お父さんとお母さんが喧嘩をして、お父さんが家を出たまま2時間帰ってこなかったんだ。だから、今日はそのことで頭がいっぱいで辛くてたまりません。」と。

するとその場にいたグループリーダー(担任)の先生は、

「そう、この場で、そのことをみんなに話してくれてよかったわ。みんなも、あなたがそういう気持ちだということ、心にとめておきましょう。」

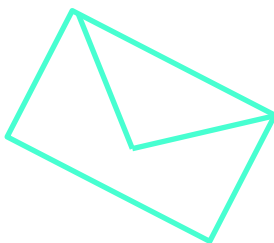
と短く答えていました。

1, 2分ほどのあつという間のことの出来事です。でも、この時の様子は、私の心に深く残りました。私たちは、とかく、学校や家庭で「明るく元気な子」を求めがちです。まるで、「暗く元気のない子」は価値が低いかのよう。でも、それは間違っているのですね。

家庭での辛い出来事を安心してつぶやける場が学校にある。すごいことだと思います。「子どもたちの心の発達とは家庭で」というのは簡単です。でも、今の時代、大人たちですら、みな、孤独な魂を持って生きている。それは、行き過ぎた産業化や都市化のためかもしれないし、あるいは、個人主義が進みすぎた結果なのかもしれません。理由はともあれ、私たちは、大人も子どもも、皆、多様化された価値観と、薄れゆく人と人とのつながりの中で、人として交わり対話する時間も少なく、孤独を深めてバラバラに生きています。学校は、だからこそ、小さな魂を持っている子たちに、「人間」として、人と交わり、お互いを尊重して生きるにはどうしたらよいかを学ばせる場とならねばならなくなってきているのかもしれない。

極端なことを言えば、インターネットとデジタル教材があふれている今の時代、教科的な学習は、先生がいなくてもできる時代です。それよりも、学校の価値とは、子どもたちの社会性を育てることのできる、ほとんど唯一の場である、ということです。さらに学校はまた、守られた環境の中で、子どもたちがつくる〈共同体〉を実現することで、保護者や近隣の人々を含む、大きな社会に、本当の意味で、互いが思いやりを持ってポジティブにかかわり合う場「を再生し、創造していく可能性すら秘めているのです。こんな場を、ドリル学習や受験のための反復練習の場、生徒と生徒を競争させる場にしてしまうなんて、なんともったいないことなのでしょう。

イエナプラン教育に携わっている人たち、また、学校を市民社会の練習の場と考える人たちの口から、繰り返し聞かれるのは、「どの子どもたちも受け入れられ尊重され、子どもたちがお互いに信頼し尊重合う場を作ることが、結局は、すべての子どもたちの、本当の意味での学習意欲につながり、学力向上につながる近道なのだ」という言葉です。



イエナプラン教育やオランダの教育に関するご質問を募集しております。リヒテルズ直子さんにこれが聞きたい！という皆さんの疑問・質問などを下記のメールアドレスまで、お気軽にご連絡ください！ info@japanjenaplan.org

研修最終日に訪れたイエナプラン中等学校。今回は、日本でもまだまだあまり知られていない、イエナプランの中等教育について、少しご報告します。

イエナプラン教育は、オランダでもこれまで初等教育が中心で、中等教育(中高一貫)にはまだまだあまり普及していません。私たちが訪れた中等学校JenaXLも、普通の中等学校の中に附設された新しい試みで、4年前に始まったばかりなので、まだ、4年生までしかいません(オランダの中等学校は、4年コース～6年コースに分かれています(拙著「オランダの教育」を参照))。

普通、オランダの中等学校は、日本とは異なり、ホームルームがありません。1年生になった時から、自分のクラスの仲間と一緒に、各教科の先生がいる教室へと移動しながら勉強します。自分の荷物はロッカーに預け、時限ごとに教室を移動するのです。

JenaXLでは、それに対して、生徒たちを2年ごとの縦割り異年齢学級(ファミリーグループ)(現在は4年生までなので、1～2年生のクラス4つと3～4年生のクラス3つがあります)にしてホームルームを設け、それとは別に、いわゆる「インストラクション」の時間として、各教科担任の先生が授業を行う部屋が別に設けられており、生徒たちは、自分のレベル(学年と進路コース)にあった授業を、ホームルームから受けに行く、という仕組みになっていました。

時間割を見てください。

8:45～9:15 サークル対話

9:15～11:30 基本ワーク(自立学習と教科的なインストラクションを受ける時間・途中15分の中休み)
*ただし、月曜日だけは、9.15から30分の時間を使い、1週間の自分の学習計画を建てます。
自分の選んでいる進路コースの授業がどの時間にあるかを学校のウェブサイトで確認し、それ以外の時間にはホームルームで自立的に勉強します。

11:30～12:30 曜日ごとに、体育、技術、演劇、芸術などの授業を、縦割り異年齢グループ(ファミリーグループ)で受講します。

昼休み後12:30～15:45の時間は、曜日ごとに異なります。

月曜・木曜: Xperienceというプロジェクト学習の時間。グループでのテーマ学習や、個人のプロジェクト学習に使います。

火曜: 選択学習の時間:(午前中の基本ワークでは不足している時間を、生徒それぞれの選択によって補う時間です。)

水曜: 12:00～13:00 全校生徒(と全職員)の出席による生徒会の時間。8つほどの委員会(校内新聞委員会、環境保全委員会、外来訪問者受入れ委員会、イベント組織委員会など)があり、すべての生徒が、どれかの委員会に入っています。(水曜日はその後放課です。)

金曜: 12:30～13:30 音楽
13:30～14:30 1週間の学習の評価
14:30～15:30 クラブ活動に似た、選択活動の時間

オランダの普通の中等学校に比べて何が違うかというと、

- ①サークル対話やXperience(ワールドオリエンテーションの中学校版といえると思います)など、ファミリーグループの共同体づくりをベースとした活動が定期的に含まれていること、
- ②インストラクションの時間が30分と短く、ほとんどが自律的な学習をベースにしていること、
- ③学習は学校にいる間に終わるのが原則で、先生は「宿題」を出さないこと、
- ④個人での自立学習、ファミリーグループでの学習、全校生徒が一緒になって行う活動などが、有機的に織り交ぜられていて、とてもシステムチックに学校の活動が企画されていること、

などが挙げられると思います。

基本的に、定期試験などは、事前に決まっていますから、どの時期にどの教科のどこまでを学んでおこなうかは、ということ、デジタルプランニングの中で既にはっきりわかっています。だから、インストラクションも生徒が自分の責任で受けるものです。

また、Xperienceでのテーマ学習や、自主研究に、ワールドオリエンテーションと同じく、ホンモノからの学びという原則が貫かれていることも重要な点であると思います。子どもたちは、午前中の教科学習の後、午後の時間、時事や実社会での話題などに即した非常に現実性の高いテーマと取り組みながら、それぞれ思い思いの場所で勉強しているという感じです。



Photo: 藤川芳宏



Photo: 藤川芳宏

イエナプランの中学校を訪問してみて、改めて考えたことですが、伝統的な日本の学校では、小学校から高校に行くまでの間に、子どもたちに、試験準備的な、教科書中心の、反復学習的な学習をさせ、同時に、社会情動的な面では、「集団生活」に慣れることを大変重視してきたように思います。その結果、能動的で批判的な思考よりも受動的で反復的な学習に傾き、そのうえ、それをしない生徒を「扱いにくい子」「集団生活に慣れることのできない子」として問題視してきた、しかし、その結果、大学に入るころまでには、自律的能動的に、問題意識を持って勉学に取り組み、他者との議論やお互いにポジティブに批判しあう客観的な見直しの態度を身につけない人間になって育ってしまう。

本当は逆で、小学校のころから、「自分の頭で」考え、他者の異なる意見を受けとめ、違いを乗り越えて協働したり、違いを通して自分の考えを見直すという訓練をしておく必要があるのではないのでしょうか。そういう訓練を絶えず繰り返しながら高校まで進んでいけば、大学に入った時には、ちゃんと一人で、教授や同僚の学生とコミュニケーションが取れ、他者の意見を受けとめたり、自分自身を批判的に見直したりするという、「科学者」としての基本の態度が身につけているはずなのです。

JenaXLでは、毎週、金曜日の午後、自分の1週間の学習を振り返ります。これは、イエナプランの小学校でもやっていますし、私たちが受けた研修の中にもそれに似たものが何度も出てきました。学習を「振り返る」時に、生徒たちは、自分で、自分の学習を次の3つの点から評価します。

1. 私は、この学習で何を学んだか？
2. 何が最も好ましかったか、それはなぜか？
3. 次に学ぶときには、どんなふうに、何を学びたいか？

このような形で、自分の学習を振り返ることを習慣に、学びが子ども自身のものになっていくのです。学びは、誰か他の人のためにするのではなく、自分のためにするものだということがわかるようになります。そして、自分にとって意義のない学びは、自分自身の生にとって役立つものとはならないということもわかるようになるのです。それは裏を返せば、学校で子どもたちを指導する立場にある人たちは、子どもたちが「意味」や「意義」を感じる内容の学習ができる場や企画をしなくてはならない、ということでもあるのです。



1.はじめに

私は大学院で環境生物学を専攻している大学院生です。私は高校の生物の教員専修免許を取得していますが、教育経験は個別指導塾で6年間塾講師を行っていた程度です。本イエナプラン教育研修には昨年参加した友人の紹介で参加させて頂きました。まったく教職経験のない人間が本イエナプラン教育研修に参加したのです。本研修について、私が見てきたこと・感じたこと・体験したこと・考えたことを中心にご報告させて頂きます。

2-1.研修について

本研修は3日間の研修(青)と2日間の学校視察(黄)で構成されていた(表1)。

参加者は理論と実践を交互に行う形で、イエナプランについて学び、実際に体験した。

そして、その都度、参加者同士が研修中に感じたことや考えたことをディスカッションし、フィードバックを行った。

本研修を通して私が感じたことは、イエナプランは「人間がどのように生きれば幸せなのか?」ということを考え、体験させる教育ではないだろうかということである。イエナプラン教育の基本行為は「共に話し、共に遊び、共に働き、共に祝う(催す)」という4つの行為である(図1)。人は話すことで自分の主張を伝え、相手の主張を聞くことができる。これは決して多数決が物事を解決する方法でないことを意味している。

人は遊ぶことでエネルギーを補充し、お互いを信じ合うことも学ぶ。人は働くことで生きていく。子供にとって働くことは学ぶことである。人は祝いや催しを通して自分の成果を発表したり、幸せな気持ちを共有する。

すべての行為に共通しているのは「共に」である。この4つの人間らしい行為はすべて他者との関係の上で成り立っている。勿論一人で仕事をする人もいれば、一人で勉強する人もいるだろう。しかし、それには限界がある。なぜなら私たちの生きている社会には一人では解決できないことがたくさんあるからである。

イエナプランではこの4つの行為を基本原理として、各小中学校で独自の教育目標を設定し、教育を行っている。イエナプランの生徒たちは学校生活を通してこれらの人間が社会で生きていく上で本当に大切なことを体験すると私は考えている。

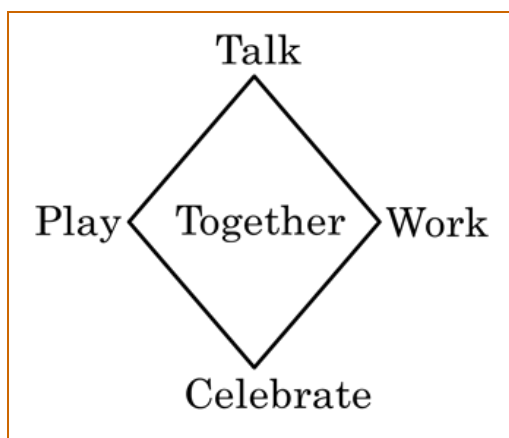
2-2.小学校訪問について

本研修では、2日目にイエナプランのPaulusschool小学校を訪問した。この小学校は4~5歳、6~8歳、9~11歳の3つの異年齢学級で構成されており、1クラスは20人程度である。

この小学校訪問で感じたことは、1つのことから10個考える力を徹底的に養っているということである。特徴的な写真がある(写真1)。

彼女たちはプリンターやラジカセを分解している。実際に分解することで中身がどのようになっているのかを確かめている。彼女たちは自らこの内容を選び、時間の許す限り機器と格闘していた。

日 目 (3/12)	イエナプランの教育理念 マルチプルインテリジェンス
2 日 目 (3/13)	Paulusschool 訪問(小学校)
3 日 目 (3/14)	ストーリーライン 子供の活性化について
4 日 目 (3/15)	イエナプラン創設関係者とディスカッション ワールドオリエンテーション
5 日 目 (3/16)	JenaXL 訪問(中学校)



(図1)イエナプランの4つの基本行為



Photo:藤川芳宏

写真1 ブロックアワーの風景

これは教科書を使って学習することとは本質的に異なっている。今そこにあるものから何かを学ぶ。つまり、1つのことからいくつもの考えを出す力を養っていた。イエナプランでは教育において「そこから何が考えられるのか？」を徹底的に重視していたと感じた。

2-3. 中学校訪問について

本研修では、5日目にイエナプランのJenaXL中学校を訪問した。学校の内容をすべて説明してくれたのは広報委員会の生徒たちであった(写真2)。校内を案内してくれたのも生徒たちが分担を決めて行ってくれた。

この中学校では生徒たちが学校運営を担っていた。日本の中学生が難しい方程式を解いている間にイエナプランの中学生は大人を相手に堂々と自分の学校の特色を説明していた。

この中学校訪問で感じたことは、内省がしっかりしているということである。生徒は月曜の朝に一週間で自分がどのような学習をするのかを決め、金曜の昼に振り返って内省を行う。イエナプランでは教科学習以外の時間に何を学習するのかを自分で考える。しかし、それをやりっぱなしにしないように必ず内省を行う。自分ができたことやできなかったことの理由を考える時間を設けている。

これは生徒にとって非常に大切な時間で、自分が本当にやりたいことをやっているのか？を自分に問いかける時間ではないかと思う。

また、内省の時間終了後にみんなで円になってゲームをした。私を含めた3人の参加者はそのゲームに混ぜてもらった。しかし、私たちはそのゲームのルールを知らなかったため、隣の生徒とペアになってルールを教えてもらいながらゲームをした。そこで私は、私の隣に座った男の子と一緒にゲームをした。その男の子はゲーム中、私の質問に対して丁寧に答えてくれ、どうやったら勝てるのかを二人で一緒に考えた。ゲームが終わってからその子が自閉症であったことを知った。私は彼が自閉症であることなどまったく気がつかず、他の生徒とそんなに変わらないと思っていた。イエナプランのような一人一人の個性を尊重する教育では、障害が障害でなくなるのであった。障害ですらその子の個性になるからだとは私は考えている。これは私にとってとても衝撃的な体験で、今まで私が障害だと思っていたことが個性であると身を持って体験した。

3. まとめ

私はイエナプランについて何の事前知識もなく、教育に対して人並みの経験しかない状態で本研修に参加した。そして、ここには書ききれない程の素晴らしい体験をさせて頂いた。本研修で考えたことを一つの絵にしました(図2)。イエナプランでは生徒一人一人の個性を引き出す教育を目指しており、一人一人が自分と向き合う(図左)。自分という個性がわかって初めて隣にいる人を感じたり、意識したりすることができるのです。だから4つの基本行為に「Together」という言葉が入るわけである。一方、画一的な教育では生徒たちに共通の価値観や知識を与え、彼らがまったく同じことをできることを望んでいる(図右)。

私は本研修を通してイエナプランから、徹底して自分と向き合うことの大切さを教えてもらいました。自分と向き合うことが本当の幸せであるということがわかったからです。世の中には答えのない問いの方がたくさんある。そして、それらの答えは必ず自分の中にある。それらを常に自分に問い続け、自分はどうしたいのかを考えなければならない。

最後になりましたがこの場を借りまして、関係者の皆様、そして原稿依頼をして頂きました日本イエナプラン教育協会の田村悠子さん、イエナの素晴らしさを伝えて下さったヒテルズ直子さん、部外者にも関わらず参加を快諾して下さいました京都教育大の村上忠幸先生、何も知らない僕をこの研修に誘ってくれた米谷直剛さん、誕生日を祝って頂いた参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



Photo: 藤川芳宏

写真2 広報委員会による時間割の説明

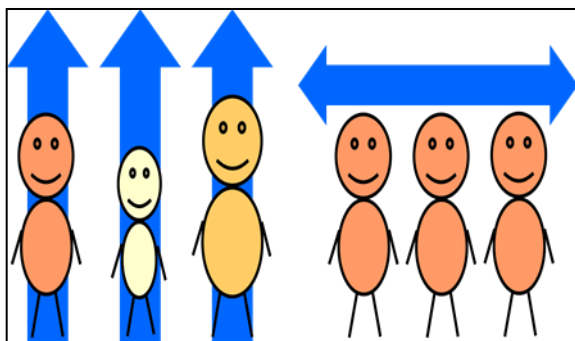


図2 イエナプラン教育と画一的な教育の違い



日本から見たオランダ・オランダから見た日本



2012年3月8日、NHKの『地球イチバン』で、また4月13日、日本テレビ系『アナザースカイ』でオランダの教育やイエナプラン校が取り上げられました。番組を見てオランダの教育に衝撃を受けた方、実際に学校を見学してみたいという思いを強くされた方がいらっしゃるのではないのでしょうか。徐々に日本ではオランダの教育に対して関心が高まってきているようにも思います。

一方、はるばる『日本から自国の教育を学びに来る人たち』はオランダの方々にはどのように映っているのでしょうか。オランダのレオワルデンクワント誌で3月の研修に関する記事が掲載されました。

オランダ人の目から見た日本について、リヒテルズ直子氏の翻訳でお楽しみください。

日本にも幸福な子どもたちを

～日本の子どもたちは、学校の成績は良いが、オランダの子どもたちはずっと幸せ。

聖パウロ小学校で日本の先生たちがそれをどうしたらやれるかを見学。～

一見すると、何か珍しい焼き物を見ているように見える人たち。日本の研究者たちが教室を巡回し、写真を撮り、メモを取っては、班に分かれたグループの間を回る。しかし、子どもたちが何を言っているのか何もわからない様子だ。英語で話しかけてもどうも難しい。レオワルデンにある聖パウロ小学校の小学生たちは、大半の研究者よりも英語がよくしゃべれる。しかし、日本人たちは、大きな目で子どもたちの様子を見つめている。

夫と共に長年にわたって開発途上国に暮らした後にオランダに落ち着いた日本人社会学者のリヒテルズ直子さんは、12人の教師、学生、教授らのために1週間にわたって、オランダの教育についての研修を組織した。特に関心の的はイエナプラン教育。このメソッドを通して、彼女のゲストたちは多くを学ぶことができると考えた。「この教育は、お互いの違いを尊重して協働することを支援しています。」

リヒテルズ氏が書いた3冊の本を通して、オランダの学校は、今日本でも、教育界の間に、大きな関心をひいている。先週、公営放送は、日本とは全く異なるオランダの学校生活についてのドキュメンタリー番組を放映した。

中国など極東の国では、全ての学校が同じ教育を提供する。教科書は類似しており、校舎もよく似ているし、ほとんどの教室では先生は「普通」教室の前に立って教えている。リヒテルズ氏によれば、それは、一国の国民を急速に発展に導くためのやり方だったという。「でもそこには、個人のためのゆとりはありません。」このシステムに合わない子どもは、すぐに船の外に投げ出されてしまう。

競争の激しい社会で、保護者は自分の子どもたちが最善の大学に入れることを望み、そのためには良い点数を取ることが求められる。それは、知識のためならよいかもかもしれない。極東の子どもたちは、国際的な調査ではしばしばランキングのトップを占めている。オランダ政府は、新しい野心に満ちた計画のプレゼンテーションでそう述べている。

しかしそれには裏がある。別の報告書によると日本の子どもたちは、しばしば(何と3人に一人が)孤独を感じているという結果が出ている。幸福という点から言えば、オランダの子どもたちは、何倍もよい結果なのだ。そして、日本人たちは、その秘密がどこにあるのかを知りたいと思っている。リヒテルズ氏は「人々はゆっくりとですが、富裕であることよりも幸せであることの方がもしかしたらよいことなのではないか、という意識を持ち始めています。」

もちろん経済的な関心もある。なぜなら社会は産業型社会の時代から、さらに先に進んでいかななくてはならないからだ。それは、クリエイティブな精神と批判的精神を必要とする。「日本は常に、コンピューターを作ることはうまかった」というリヒテルズ氏。「しかしiPadを生み出すことはできませんでした。人々は、常に地震の恐怖があるにもかかわらず、52基の原発が作られることを受け入れてきました。」

批判的な市民を作ることはとても大切なことだと語るのは、帝塚山大学の今谷順重教授だ。彼は、日本の子どもたちを世界市民として育てるための全国組織の議長をしている。「そのためには教育が必要です。子供たちの自立性と差異を尊重する教育です。」さらに教授は、微笑みながら、子どもたちが「幸せ」であるのを見ることはよいことですよね、という。

日本人の研修者たちには、聖パウロ小学校で、子どもたちが話していることは何も理解することができないかもしれない。しかし、教室にいっぱいいる、個別に、そして、グループで楽しそうに学習している生徒たちを観察している。

ロンドンですでに1年を過ごし、日本でのことを振り返りながら、教育学者として、多くの新しい理解を深めたという根本明英さんは、すごい、と一言。そして、今谷教授は、深く頭を垂れながら「本当に考えさせられることに満ちています」と言った。

★期限迫る！！オランダ研修2012・8月、参加者募集！！★

夏休みに、本場オランダのイエナプラン教育を体験してみませんか？
リヒテルズ直子氏の通訳＆解説もあるまたとない機会、ぜひご検討を！

【日程】8月21日(火)～24日(金)※オランダの滞在日です。

【実施場所】オランダ・バレンドレヒト

【研修トレーナー】JAS(イエナプラン・アドバイズアンドスクーリング)の専門トレーナー

【同行・通訳・解説】リヒテルズ直子氏、

【内容】

21日 JAS(Jenaplan Advice Schooling)の施設見学※

22日 JASによるイエナプラン教育研修

23日 JASによるイエナプラン教育研修

24日 イエナプラン校見学

※このツアーはオプション・ツアーです。参加者には参加費として50ユーロ(交通費込)をいただきます。

JASは、現在オランダに存在するイエナプラン教育の研修機関として最大のモノ、研修施設には、マルチプルインテリジェンス(ハワード・ガードナー)の考え方を普及させているグループが、各インテリジェンスのアイデアを特設の部屋に設定して、教材その他を手にとって見れるようになっている施設です。

【研修参加費】850ユーロ(渡航費・食費別)

【最低実施人数】10名(最大25名)(すでに最低実施人数を達成しています)

【申込締切日】最大人員達成段階で締め切り

【申込方法】info@japanjenaplan.org まで、件名を「オランダ研修申込」とし、
・氏名・所属・メールアドレス・電話番号をお送り下さい。

★講演会・ワークショップ開催！★

『イエナプラン教育での【教材】に対する考え方』

ワークショップでは、ワールドオリエンテーションの進め方にも迫ります！

皆さま、是非お誘いあわせの上、お申込み下さい。

【日時】2012年6月9日(土)10時半～16時

【内容】午前の部：講演『ホンモノから学ぶ

～イエナプラン教育の教材はどうなっている？～』

午後の部：ワークショップ

【会場】(株)教育同人社

【定員】30名※先着順

【参加費】4,000円(会員3,500円)

【講師】リヒテルズ直子氏

※オランダ・イエナプラン教育協会認定の教員認定書(ディプロマ)を保有

※イエナプラン教育の普及に尽力している人に与えられるイエナプラン・エイル
賞を受賞。<http://www.jenaplan.nu/>

【申し込み】<http://kokucheese.com/event/index/35552/>よりお申込み下さい。

【お問合せ】info@japanjenaplan.org

★【リヒテルズ直子さんへのご質問】を募集しています。

オランダの教育・社会について、リヒテルズさんに聞いてみたいことはありませんか？講演やワークショップのご感想や、もっと詳しく知りたいこと、素朴な疑問など、ご意見など、ぜひお聞かせ下さい。

ご質問をお送り頂く際は、件名に「質問箱」とお書きの上 info@japanjenaplan.org までお送り下さい。

※紙面の都合上、頂いたご報告やご質問をこちらで編集することがあることをご了承下さい。

皆さまからのお便りをお待ちしております。

★ニュースレターへのご意見ご感想をお待ちしております。

より良いニュースレターの制作のためにも、みなさまのご意見ご感想を info@japanjenaplan.org

までお寄せ下さい。心よりお待ちしております。

★ニュースレターへ皆さんのイエナの活動や実践をお寄せ下さい！

イェナプラン教育に興味・関心を持たれている方々とのネットワークづくりをしていきたいと思っています。皆さまの活動(体験談・実践してみた上での悩みや失敗談など何でも)をニュースレターでご紹介させて頂き、イェナの活動の輪を広げていきたいと思っています。どんな小さな事でも良いので、

info@japanjenaplan.orgまでお寄せ下さい。心よりお待ちしております。

★協会のFacebookページができました。

Facebookをご愛用、ご活用の皆さま、協会のページができました。

イェナプランに関心を持っている方や多様な教育に興味がある方が、お互いの活動や意見を共有できればと思います。お気軽にご投稿下さい。

★各支部のご案内

東京支部 info@japanjenaplan.org

千葉支部 chiba@japanjenaplan.org

埼玉支部 saitama@japanjenaplan.org

京都支部 kyoto@japanjenaplan.org

福岡支部 fukuoka@japanjenaplan.org

